

一般の会社で働くこと

～一人ひとりが自分の希望をかなえるために～

働く意味から考えてみよう

「障害者が働く」というイメージは、例えば福祉施設で自主製品を作ったり、施設が運営するレストランでみんなが働いていたり、障害のある人が集まって仕事をしている印象ではないでしょうか？ もちろん、これも大事な働き方のひとつです。福祉施設で働くことに生きがいがある人、その働き方を必要としている人たちはたくさんいます。

一方で、最近では一般の会社で働きたいという希望をもった人たちが増えてきています。その希望に沿うために、日本には障害のある人が一般の会社で働くことを促進する法律があります。一定規模の会社は障害のある人を雇うよう定められており、これを守らないと納付金を支払わなければならないなど、さまざまな規定があります。

国連の「障害者の権利条約」では、障害者は、特別な環境（施設等）ではなく、人とのつながりのある場所で、だれもがその人らしく働く権利があるとしています。また、この条約では、一人ひとりの個性やその人に合った働き方を尊重しています。すなわち、障害のあるなしにかかわらず、だれもが働きたいという気持ちを、身近な場所で、その人らしくかなえる権利があること、また社会も障害者の働きたいという気持ちに沿う役割があるというこ

とになります。

ここからは、ダイスケさんとエミさんの二人に登場してもらい、働きたい気持ちをどのようにかなえていったか、見ていきたいと思います。

事例

障害があることで働きにくい状況がありました

ダイスケさんとエミさんは3年来の友達です。二人は精神障害者の施設に通所し、主にメール便の仕分けや配達の仕事をしています。二人は同い年で、病気のことやいろいろな悩み、将来のことなどもよく話し合っています。あるとき二人は、「そろそろ仕事をしたいな」と話し合いました。二人はその思いを施設の職員に相談しましたが、職員からは、施設の業務で手いっぱいだからそこまで支援するのは難しいと言われてしまいました。そこで二人はインターネットで近くにある就労支援センターをみつけ、その精神保健福祉士のマコトさんに相談することにしました。

マコトさんは、二人のこれまでの仕事や今後の希望について聞きました。

ダイスケ 「学校卒業後初めて就いた仕事では、精神科に通院していることはだれにも言えませんでした。でも病気のせいで集中力が落ちて上司からは怒られ、妄想がもしれませんが、同僚からばかにされていた気がして……つらくて辞めてしまいました。その後も何度か仕事をしましたが、つらくて長くは続きませんでした。ただ、これからは病気の再発も心配なので、障害があることを伝えて短時間でやれる仕事がいいです。お金のことも気にはなるけど、無理なく働きたいです。これまではコンピューターの仕事が多かったけど、結構人と話すのが好きだから、接客業なんかやりたいと思っています。それで、障害年金と生活保護をもらいながら一人暮らしがしたいです」

エ ミ 「私は銀行の窓口業務で仕事をしていて、とてもつらかった記憶があるんです。うつがひどくなると、お客さまや上司の言っていることが頭に入らなくて、それでつらくなって会社に行けなくなってしまいました。ダイスケ君と同じで、銀行を辞めたあとも何度かアルバイトにチャレンジしたけど、やっぱりつらくなって続きませんでした。それから、施設でゆっくりと働いていました。希望は、正社員で働きたいんですが、精神科に通院していることはあんまり言いたくないんです。ただ、施設でゆっくりしすぎちゃって、朝早く起きるのが苦手になっちゃったので、そこから練習が必要かなと思っています」

二人はマコトさんと相談して、就労支援センターに登録し、それぞれの目指す仕事に向けて準備を始めることにしました。

そして半年後、二人は近況報告を行っています。

＊ 働き方の多様性——その人に合った仕事を目指すことができます

ダイスケ 「僕はマコトさんと相談して、レストランで就労実習を3か月やったんだ。最初は慣れなくて、体調が悪くなったときもあったけど、マコトさんに相談しながら乗り切ったよ。ちょうどそれが最近終わって、今仕事を探しているところ。体調も考えて、希望は午前中だけの接客業がいいんだ。ただ、ハローワークの人と一緒に50件くらい問い合わせただけど、障害のある人はちょっと……と言われることが多くてね。年齢や性別も含めて、短時間の仕事に就くって結構難しいなど実感しているよ。でも、やっと1件面接が決まって、明日ベーカリーの販売の面接にマコトさんと一緒に行くんだよ」

エ ミ 「私は就労実習はまだ自信がないから、就労支援センターのプログラムに参加しているの。そこで、自分がどういう仕事をしたいか、

そのためには何が必要かをじっくり話し合っただけで、最初がんばりすぎちゃって、2週間たったところで3日間寝込んでしまった。すごく落ち込んで、辞めようかと思ったんだけど、プログラムの仲間同士で話し合っていて、あんまり最初から無理をするのはやめよう……と思ったら、ちょっと気持ちが楽になったの。それと、障害者雇用についてみんなの話を聞いたので、それも選択肢に入れようかなと考え始めているところ」

そして前回の近況報告から1年後。二人には変化があったようです。

ダイスケ 「ベーカリーで働いて1年がたったよ。自分の障害や体調のことをわかってもらって仕事ができるって、とってもやりやすいよ。体調があんまりよくないときは、お店の人に言って少しゆっくりさせてもらおうと、また仕事に戻れるんだ。それも最近減ってきたよ。

お店の人は、採用面接のときに障害者を雇うことにあんまり気乗りしなかったんだって。障害者はよくわからないって思っていたみたい。でもマコトさんの説明や、僕が自分のできることや、ちょっと配慮してほしいことを正確に話したことが安心したポイントだって言われたよ。今は、働くことがとっても楽しいし、お店の人やマコトさんなんか頼りながらも、何か自立してるなあって気分。次の目標は一人暮らしかな」

エミ 「私も、障害者雇用で契約社員として来月から働くことが決まったの。本当は周囲の目が気になるから、精神科に通院していることをあんまり言いたくなかったんだけど、体調や定期的な精神科通院のことを考えると、職場に自分のことを知ってもらったほうが働きやすいかもしれないと思ったの。それに、朝の通勤ラッシュにあたらないよう配慮してもらって、10時から17時の勤務時間にしてもらえたの。

ただ、これからのことを考えるとちょっと不安だから、当分はマコトさんがジョブコーチ*で来てくれて、仕事の手順や職場での対人関係などを上司と一緒に考えてくれるの。ここで何年かやれたら、正社員を目指したいなと思ってるの]

※ジョブコーチとは…障害のある人が一般の会社で働く際に、職場の中で一人ひとりの状況に応じ、仕事が円滑にできるように調整する人のことです。仕事のわかりやすい手順を考えたり、職場の人間関係がうまくいくよう、サポートをしてくれます。

一人だけががんばらなくてもいいんだ！ ——社会が働く手助けをすることが大事です

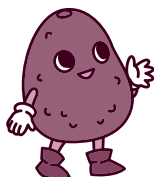
ダイスケさんは、精神障害があることを明らかにし、自分の体調などを考慮したうえで短時間労働を希望しました。そして、働く＝経済的自立としてとらえるのではなく、自分らしく働いていることに「自立してるな」と感じているようです。また、エミさんは仲間と話し合ううちに障害者雇用で働くことを決意しました。そのために精神障害者保健福祉手帳の申請を行いました。いろいろな情報をもとに、自分なりに考え、決定した働き方です。そして、これからさらに正社員を目指していこうという意欲に燃えています。

人は障害があるなしにかかわらず、やりたい仕事に就く権利があります。もちろん、ただ一方的にやりたいと思えばその仕事に就けるということではないですが、その気持ちをもち続けることはだれにも妨げられるものではありません。しかし、精神障害がある人の場合、障害により労働時間や仕事内容などに制約を受けるだけでなく、精神障害者であるということ自体が大きな制約となる場合があります。

「障害者の権利条約」第27条では、障害があるなしにかかわらず自分の希望のもとで働くことのできる権利を述べています。障害があるから仕事内容が制約されるという考え方ではなく、一人ひとりがやりたい仕事にチャレンジできる機会を大事にすることが必要ではないでしょうか。そのためには、

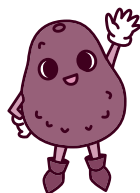
障害についての正確な知識や情報が身近にあること、障害があっても働くことのできる場が整備されていること、さらに、それをサポートする体制づくりも必要です。そんな社会になったら、だれもが安心して生活できるかもしれませんね。

アドボくとケイトちゃんのQ & A コーナー



障害者の雇用制度ってな～に？

「障害者の雇用の促進等に関する法律」で決められている制度で、国や自治体、一定規模以上の民間会社などは、障害者を一定割合雇用しなければならないという制度よ。精神障害者は雇用義務の対象ではないけど、精神障害者保健福祉手帳を持っている人は雇用率の対象となるの。



じゃあ、精神障害者保健福祉手帳ってな～に？

精神障害があることだけでなく、社会自体が受け入れるしくみが足りないことで、長期的に日常生活や社会生活に支障があるということを証明するものなのよ。制度上の障害者雇用にはこの手帳が必要なの。エミさんの場合は、障害者雇用のために手帳を取得したのよ。

